

# のらぼう菜 多収の秘密



2月下旬の一番最初の収穫が特に肝心。節間が伸びて、つぼみが顔を出してくるより前に、株元近くの低い位置に鎌を入れるのがコツ（写真はすべて依田賢吾撮影）



1袋200円で、あっという間に売れていく

この2月発売の新作DVDにも、つぼみ菜栽培の「コツと裏ワザ」が収録されている。一つはカラー口絵で紹介した「はくさい菜」。そしてもう一つが、「おいしい」と評判の関東の伝統野菜「のらぼう菜」。

神奈川県川崎市の高橋孝次さん（85歳）は、このナバナをつくり続けてなんと70年。毎年3月4月は太くて甘いつぼみ菜を毎日収穫、自宅前の小さな直売所に並べるだけで、10a100万円稼いでしまうという。「お金になるよ。ふかふか」

多収の秘密はDVDでたっぷりご覧いただくとして、ここではコツを一つだけ。収穫はなるべく地際近くから。株元の低い位置に鎌を入れれば、次のわき芽も低い位置から出る。わき芽は低い位置から出るもののほうが断然太くてやわらかいのだ。

編



4月中旬のある日の1株分の収穫量を比較。高橋さんののらぼう菜は太く、量も多い。収穫期間も他の人より長く、5月上旬までとる



他の人の畑を見ると、地上30cm付近のだいぶ高い位置で収穫されていた。こうなると、わき芽は高い位置から出るしかない(頂芽優勢)



DVD

のらぼう菜・はくさい菜については、DVD『直売所名人が教える野菜づくりのコツと裏ワザ』シリーズ第3巻『挿し芽・わき芽でまる儲け』に収録されます(2月中旬発売)。合わせて、このDVDと連動した書籍(別冊現代農業)も3月発売! お楽しみに。